

博物館活動と学校教育の融合についての研究

伊丸岡政彦¹⁾

Study about museum activity and scholastic fusion

Masahiko IMARUOKA

(キーワード：) 学校教育 美術教育

1 はじめに

博物館に於ける児童・生徒に対する美術指導は概ね鑑賞に始終する傾向がある。博物館活動の中での美術指導の可能性、特に出前授業での学校からの希望は殆ど無く、出前授業にどのように組み込んでいけるかの研究が望まれている。

今年度、青森県下北郡で中学校の教育現場で美術教師として長年にわたり、生徒の美術教育を実践してきたむつ市の野口広美氏(以下敬称略)の実践例をもとに、学校現場に於ける美術指導実例から博物館活動、特に出前授業での美術指導の可能性について調査研究をおこなった。

本研究をおこなうにあたり、調査についてご教示いただき、また作品の掲載の許可をいただいた野口広美、及びむつ市大湊中学校校長に謝意する。

2 美術教諭 野口広美

野口広美は1954年、青森県むつ市に生まれる。1972年青森県立むつ工業高等学校(電気科)卒業、1978年多摩美術大学卒業、1981年に多摩美術大学大学院美術研究科卒業した。

1993年4月、東通村立北部中学校の講師となり美術を教える。北部中学校校長浅利明に出会い指導を受けて、その後の美術指導の原点となった。野口広美は、生徒達に美術を教えながら、作品製作を続け中央画壇出品作品展や青森県秀作展に出品した。1994年4月、東通村立北部中学校の美術教諭となり、教員生活を歩んだ。

3 美術指導実践例

1997年4月、むつ市立大湊中学校に赴任し、生徒達に美術のおもしろみや楽しみを伝えるための制作活動を繰り返す。その活動の中でも今現在、大湊中学校で継承されている特別活動がある。それは生徒達によるステンドグラス作成である。このステンドグラスは、本物のガラスを加工するものではなく、黒く塗ったボール紙とセロハンや和紙などを素材にして作るものである。生徒達は、秋の文化祭のセレモニーに合わせて、夏休みに登校し、暑い中体育館で制作する。今現在、大湊中学校の体育館に飾られているのが写真1・2である。



写真1 大湊中学校体育館ステンドグラス



写真2 大湊中学校体育館ステンドグラス



写真3 大湊中学校体育館ステンドグラス 「安渡の四季 春」

1) 青森県立郷土館学芸主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)



写真4 大湊中学校体育館ステンドグラス 「安渡の四季 夏」



写真5 大湊中学校体育館ステンドグラス 「安渡の四季 秋」



写真6 「安渡の四季 冬」



写真7 1F 西階段



写真8 1F 東階段

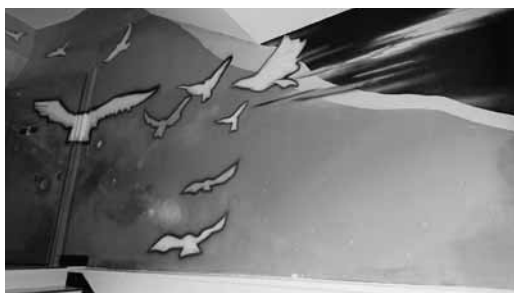


写真9 1F 西階段



写真10 1F 東階段

大湊中学校では、教職員を中心に学校全体で美術教育に取り組んでいた。その中で、野口広美が在職していた頃の作品が写真3～6である。「安渡の四季」＝「大湊の四季」のステンドグラスではセロハンは使われていない。ボール紙の裏に和紙を貼り、エアブラシで水で溶かしたねぶた絵の具を吹き付けて色をつける。以前のステンドグラスに使っていたセロハンは熱に弱く伸縮するので長い間展示するとセロハンがやぶけてしまうが、和紙であれば伸縮性に強く破けることがない。そして、和紙で作った作品は本来のやわらかい特性と暖かい印象を与える。野口広美が生徒とともに作った感動の作品である。

また野口広美は、「生徒達の身近に絵を!」という願いから、学年別に生徒達に校内階段の壁面に壁画を描かせた。



写真11 2F 西階段



写真12 2F 東階段



写真13 3F 西階段



写真14 2F 東階段



写真15 3F 西階段



写真16 3F 東階段

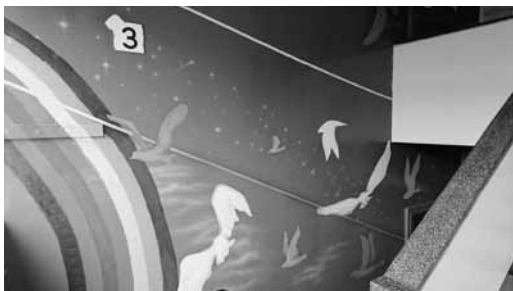


写真17 3F 西階段



写真18 3F 東階段



写真19 4F 西階段



写真18 3F 東階段



写真20 4F 西階段



写真21 4F 東階段



写真22



写真23

学校全体を一つのクレパスのように配置し、生徒達に美術の興味・関心を高める工夫をおこなった。その活動が写真7～21である。この壁画を制作した頃に比べて現在は、壁画が所々劣化してきているので、今年度在中の生徒達の手によって修復された。また、生徒会の子供達の手によって描かれたスローガンを掲示する看板を作成し始めたのも野口広美である。それが写真22・23である。生徒達に美術の楽しみが伝わっているのがわかる。

2010年、むつ市立大畑中学校の校長として赴任。校内の廊下や玄関などに多くの絵画作品や生徒達の作品を掲示し、美術の授業を通して豊かな心と感受性を育んだ。

以上の現場の実践例から、博物館普及活動のなかで可能性のある美術指導として、現場の美術教諭との連携によりただ作品の鑑賞ばかりでなくテーマを持った美術鑑賞、数時間でできる美術制作セットの開発、文化祭など全校生徒が一丸となって取り組める美術活動の指導などの可能性が考えられる。

4 終わりに

美術教師、野口広美の生徒達に美術の楽しさ・おもしろみを伝え、壁画制作、ステンドグラス制作などの活動に取り組んできた事実を紹介した。この中で、博物館活動の中での美術指導の可能性を探ることができた。